

●緑区役所の主な取組

緑区役所では、平成28年度の緑区政運営方針において、「次世代につなぐ みんなにやさしいまち～「ふるさと みどり」」を基本目標とし、その達成に向けた施策として、「安全・安心なまち」、「いきいき暮らせるまち」、「みどりの魅力あふれるまち」の3つの柱を掲げ、事業に取り組みました。

平成28年度からスタートした第3期みどりのわ・ささえ愛プランについても、区政運営方針に位置づけて進めています。今年度の主な新規事業を中心に 実施状況を紹介します。

1 安全・安心なまち

(1) 災害に強いまちづくり

地域防災拠点の機能強化の一環として、ガス式発電機／デジタル無線機／ポータブルトイレ／組立式トイレ・備蓄用セット等の備蓄資機材から希望のものを各拠点（22 拠点）に1種類ずつ拡充し、資機材取扱研修も実施しました。また、横浜市防災計画「風水害等対策編」の修正を踏まえ、緑区防災計画「風水害対策編」を見直したことにあわせて、9月の区災害対策本部運営訓練では、風水害防災研修会とDIG・HUG訓練を実施しました。

(2) 安全・安心な環境づくり

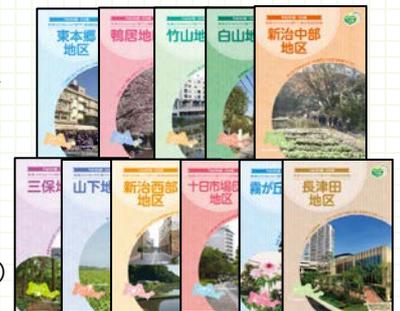
三保地区のバス通り等（宮根団地付近歩道、薬師谷戸付近）の歩行者空間の整備や公園にある地域防災拠点の案内板の更新、緑区公園マップの更新を行いました。

2 いきいき暮らせるまち

(1) 第3期「みどりのわ・ささえ愛プラン」の推進

第3期計画の1年目として、区の推進委員会と各地区別計画の推進委員会を2回ずつ開催しながら、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ等が一体となって、区域計画で掲げた「日常的な見守り体制づくり」などの6つの重点テーマに関連する新しい取組や関連団体等との連携の強化、地区支援チームによる各地区の地域主体による取組の支援を進めました。

また、カフェスタイルのプランPRイベント「みどりのわ・Café」を開催（3回・計約500人参加）したり、各地区別計画リーフレット（全戸配付）やPR動画を制作するなど、新たな広報活動も展開しました。



▲地区別計画リーフレット

(2) 妊娠期から学齢期までの切れ目のない子ども・子育て支援と次世代育成

子育て支援を行っている関係機関・団体とのネットワークの活性化を図るため、「みどり子育て支援連絡会」を2回、地区別連絡会を2地区計4回開催しました。また、乳幼児連れでの外出を促進するため、新たに市立保育所等に、授乳・調乳・おむつ替え等ができる「赤ちゃんの駅」（公立4園・民間9園）を設置しました。他にも、離乳食ランチ交流事業の実施や、園庭開放等を実施する園同士が情報交換を行い、連携強化や事業内容の充実を図る「子育て事業施設連絡会」を開催（3回）しました。さらに、学習・体験の機会の充実を図るため、大学と連携した「中学生等キャンパスチャレンジ事業」（3大学・3中学校と連携。大学教授による講座や大学生のボランティアサークルによる体験講話）も新たに実施しました。

(3) 地域における青少年の育成（子どもたちの地域社会への参画と体験の場づくり）

「夢みどり50プラン」（区制40周年を記念して区内の小中学生が描いた10年後の緑区の姿）の実現に向け、区内小中学校の代表児童・生徒が集まり「夢みどりリーダー会議」を8月に開催しました。会議で決めた取組を各校に持ち帰り、進めています。また、青少年指導員による青少年を対象とした防災啓発イベント「ゲームで学ぼう！防災イベント」を新たな事業として開催（49人参加）したり、主に小学生とその保護者を対象とした季節の行事に関連したワークショップイベント「冬のたからものづくり」を開催（約800人参加）しました。

(4) 高齢者・障がい者施策の推進

住み慣れた地域で医療・介護等が切れ目なく提供できる仕組みづくりに向けて、緑区在宅医療相談室と連携した取組を進め、地域包括支援センター、民生委員・児童委員、介護サービス事業者、医療機関等による「地域ケア会議」等を開催しました。また、地域包括ケアシステム構築の一環として、今年度から新たに「生活支援コーディネーター」が配置された、区社会福祉協議会と各地域ケアプラザ等と連携し、生活支援の充実に向けた取組を進めました。介護予防の取組に関しては、「シニア元気づくり活動発表会」と題して、区内各地区の介護予防の活動団体の発表会を緑公会堂で初めて開催しました（286人参加）。

障がい者の社会参加と障がいへの理解促進としては、既存イベント等を活用した自主製品販売を推進するため、自主製品販売を行う施設間のネットワークづくりを支援し、「のぼり旗」などの販促グッズを作成しました。また、緑公会堂のオープニングイベントの一環として、「みどりぶんぶんマルシェ」と題した共同販売を実施しました。

(5) 生涯にわたる健康づくりの推進

生涯にわたる健康づくりの取組として、新たに、関係団体や学校、企業等と連携し、区民に広く「食育」を啓発する食育月間イベント・講演会を実施（緑公会堂・延べ1150人参加）しました。ウォーキングの普及啓発と緑区の魅力を発信する「ミドリン・ウォーキングマップ」を増刷し、ウォーキング関連イベントも実施しました。運動実施率向上のための取組としては、トップアスリートによるスポーツ体験型イベントとして、パラリンピック種目体験会や元サッカー日本女子代表選手によるサッカー教室を区内小学生を対象に実施（延べ200人参加）しました。

(6) 暮らしのなかのセーフティネット

生活困窮者の自立に向けた支援として、ハローワークの窓口「ジョブスポット緑」と連携した一体的な就労支援を進めるとともに、困難を抱える子どもの学習を支援するための「寄り添い型学習支援事業」を2か所拡充し、区内4か所・4教室（中学生対象：3教室、小学生高学年対象：1教室）運営しました。

3 みどりの魅力あふれるまち

(1) 第33回 全国都市緑化よこはまフェアの推進

緑化フェアの開催に向けたPRイベント「森のサーカス」を開催し、舞台装飾を作るペーパークラフトワークショップ（61人参加）と、鴨居原市民の森を舞台とした幻想的な現代サーカス（283人参加）を実施しました。



▲「森のサーカス」ポスター

(2) みどりの魅力を活かした地域活性化

消費者と商店街の顔の見える関係づくりの支援として、新たに「みどり区商店街ポイントウォークラリー」を2回開催（計109人参加）しました。また、区の魅力発信と地域活性化を目的として、今年も緑新栄会を会場に「スマートイルミネーションみどり～なかやま幻影横丁 Part2～宇宙からの使者」を開催（2日間・約3,800人来場）しました。

区内に残る歴史的・自然的・文化的地域資源である「緑区遺産」として、新たに1か所「恩田川の念仏橋跡」を登録しました（計9件）。さらに、地域の現状を踏まえたまちづくりとして、「山下地区ささえあいバス」（地域共助の乗り合いバス）の実証運行開始を支援し、十日市場駅周辺地区では、法令に基づく「バリアフリー基本構想」を策定しました。

(3) 地域力の推進と市民活動の支援

開講2年目となった、地域活動に携わる人材の「発掘」「育成」や地域の課題解決、魅力あるまちづくりの手法を学ぶことを目的とした区民向け講座「みどり『ひと・まち』スクール」は、全8講・24名が卒業しました。

(4) 区制50周年プロジェクト

平成31年10月の緑区制50周年に向けて、区職員による「MIDORING50プロジェクト」を立ち上げ、記念事業案やプロモーション企画等を検討開始。

平成29年1月からは、区のフェイスブックで区民の皆様にご協力頂いた写真を使用した「1000日カウントダウン」を開始。他にも、「緑区制50周年準備ロゴマーク」（右画像）を作成するなど、様々な形で50周年に向けて動き出しました。

